

		チェック項目	現在の取組内容・工夫している点	今後の改善目標(内容)
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	・現時点では適切である。 ・1F・2Fにスペースを確保し、利用目的に応じ活用している。 ・今後、高学年以上の子どものが増え、身体も大きくなると狭さを感じるかもしれない。	・1F・2Fの活用法を今後もっと工夫していく。
	2	職員の配置数は適切であるか	・法令遵守し適切であるが、職員に体調不良等が出た際は、人数の確保が難しい時がある。 ・保育士、児童指導員、福祉サービス経験者など専門性が確保できるように努力している。 ・今後、児童の年齢幅に合わせた支援をより細かく行っていくには、職員の増員が必要。	・質の良い支援が担保できるよう、有資格者の募集を行っている。
	3	合理的配慮の視点に基づく環境整備がなされているか	・トイレ内や階段等に手すりを設置。 ・学習室は集中できるよう、壁に机を配置している。 ・学習室には視覚刺激が入らないよう、壁には何も貼らずにシンプルな部屋にしている。 ・外出する前に座らせ、一旦行動を落ち着かせてから出発できるよう、入口付近にソファを配置している。 ・大型の棚は地震対策で転倒しないよう全て固定している。 ・利用目的や活動に応じ、1F・2Fのスペースを有効に使用している。 ・静と動の活動に応じ、部屋を区分できるよう可動式のおモチャ棚を利用している。 ・パーティションやおモチャ棚を活用し、活動ごとに子どもが集中しやすい空間づくりをしている。 ・クールダウンのスペースを設けている。 ・更衣する際に見えないよう、カーテンを3か所に取付けている。 ・季節を感じるができるよう、月ごとの壁面を飾っている。 ・TVに注目がいかないよう、カバーをかけている。カバーも目立たない色で作成している。 ・ロッカーの棚は、背文や身体機能に配慮し棚板の高さが変えられるようにしている。 ・荷物の管理が苦手な児童には、ロッカーを2段使用し、整理シートを活用し、管理しやすいようにしている。 ・ロッカーの位置は、その日利用の児童の特性や相性等に配慮し、熟考し決めている。 ・蛍光灯に全て飛散防止フィルムをつけている。 ・倉庫は児童が立ち入れないよう、常にカギをかけている。 ・不審者を防ぐためと、児童の飛び出しを防ぐため、入口ドアはWロック錠鍵をし、扉の開閉時にはベルが鳴るようにしている。 ・和・洋式両方のタイプのトイレを設置し、どちらも使えるようにしている。 ・その日の活動の見通しが持てるよう、デイリープログラムを提示している。 ・その日の予定が分かるよう、カレンダーに写真やシンボルマークを貼り、見通しが持てるようにしている。	・毎年、環境の見直しを行っているが、これからも子どもの成長に合わせた、環境の見直しを行っていく。

		チェック項目	現在の取組内容・工夫している点	今後の改善目標(内容)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	・時間を設け、正職員を中心に行っている。 ・短時間勤務の職員は、参加できていない事が多い。 ・非常勤職員に会議の内容が分かるよう、会議録がすぐに確認できるようにしている。 ・大きな業務の変更点は、管理者や常勤職員より非常勤職員に伝達している。 ・年に一度の人事考課の面談で、業務への心配事や改善して欲しい事等を、個別で確認している。	・勤務形態上、非常勤の職員の中には、会議に参加する事が難しい職員もいるので、どの職員も業務改善に参画し意見が言えるよう、管理者との面談の機会を増やしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	・年度末に、事業所独自のアンケートを実施していたが、今年度より保護者向け評価表を活用し、アンケートを実施した。 - 事業所ホームページにて現在掲載中。	・来年度以降も継続して行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	・今年度より実施、ホームページで公開している。 - ホームページを閲覧できない方には、印刷したものを配布し対応している。	・来年度以降も実施していく。
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	・年間を通し、支援の基礎と専門性を研修を通し学んでいる。 ・設定療育に必要な外部の研修も積極的に活用し学んでいる。 ・非常勤職員も参加できている。 ・参加できない職員も情報が共有できるよう、研修記録を作成し、資料と共にファイリングし、どの職員も閲覧できるようにしている。 ・個別に参加したい研修には、費用を出す体制になっている。	・今後は、今まで以上に個別研修への情報提供を行い、知識や専門性を深めていく機会を作っていく。
適切な支援の提供	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	・保護者と面談を行い、児童の状況把握と保護者からのニーズを共有するようにしている。今年度より、子ども自身からの聞き取りも行うようにし、本人のニーズの理解に努めている。 ・ケース会議を行い、全職員でニーズや課題を整理し、多角的な視点で分析できるように努めている。	・今後は、面談技術や、支援計画の研修を受け、専門性向上に努めていく。
	9	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	・現在、標準化されたアセスメントツールは使用していない。	・今後、アセスメントツールの学習をすすめ、使用できるようにしていく。
	10	活動プログラムの立案をチームで行っているか	・会議等で常勤職員が中心に話し合い、活動プログラムの立案を行っている。新人職員、非常勤職員の意見も広く取り入れている。	・どの立場の職員も意見が出しやすい環境づくりを今後も継続していく。
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	・曜日毎で療育内容を定めている。全ての活動が意味を持ったものになるよう心掛けている。 ・会議でねらいや内容を検討し、子どもの成長に合わせたプログラムを実施するよう工夫している。	・子どもの発達を見極め、成長に合わせたプログラムを職員全体で考えていけるよう、会議での話し合いの場を設けていく。
	12	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	・平日は下校時間が一定でないので、それに合わせた療育プログラムを行っている。 ・休日、長期休暇は時間がしっかり確保できるので、クッキングや外出、季節の行事等ねらいを定め、様々な経験が積めるよう支援している。	・今後も、平日、休日のプログラムが固定化されないよう、活動の見直しを会議等で行っていく。
	13	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動プログラムが考えられているか	・ワーク学習や自立課題等の個別活動のプログラムと設定療育の中での集団活動プログラム、自由遊びの時間を入れ、1か月の療育の流れを組み立てている。	・個別活動プログラムにしっかりと時間が取れないこともあるので、1日の構成を朝のミーティングでしっかりと話し合い、適宜組合せを考えていく。
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	・必ず毎朝申し送りを行い、支援にあたっている。 ・行事を行う時は、ねらいや子どもの動き、職員の動きを全職員が共通理解できるよう、指導案を立て個々でも再度確認出来るようにしている。 ・毎朝支援開始前に必ず、申し送りで前日の児童の様子、個別課題活動の取り組み、相談、事故、ヒヤリ、苦情等の情報共有を行っている。 - また、当日の活動内容、個別課題活動の内容などの確認、送迎の動き等を申し送りにて周知している。	・前日の振り返りをもっと効率的に進め、当日の療育内容の確認に時間が取れるように、申し送りの内容を見直す。 ・午後から出勤の職員に伝え漏れがあったりするので、その日のリーダーがきちんと伝達するようにしていく。
	15	支援終了後、職員間で必ず打合せをし、行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	・長期休暇時は当日の支援終了後に行うが、平日においては、相談やヒヤリの報告のみ終了時に行い、細かな振り返りは翌日の朝に申し送りで行っている。 ・個々に振り返り、気づき等を毎回話し合っている。 ・毎月必ず会議で、行事や、設定療育等の評価や反省点を報告している。 ・申し送りノートや相談受付票、業務日誌で当日の出来事や連絡事項について、全職員が周知できるように所定の位置に書類を置き、閲覧できるようにしている。	・全職員が発言できるような仕組み作りを行っていく。 ・今後は、課題活動への取り組みをより共有できるような仕組みを考えていく。

		チェック項目	現在の取組内容・工夫している点	今後の改善目標(内容)
適切な支援の提供	16	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	・申し送りノートやケース記録等で、記録を取っている。 ・毎朝の申し送り時を中心に、支援の検証・改善に繋げ、次の手立てを考えるようにしている。	・日々記録は取り、検証、改善に努めているが、不十分に感じている。朝のミーティングを有効に活用し、検証・改善が行えるような仕組みを考えていく。
	17	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	・年2回行っているが、もっと回数を増やす方が良い。	・年間の会議等を見直し、増やせるようにしていく。
	18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	・基本活動を組み合わせて支援を行っている。 ・地域の公園で遊ぶ際は、公園にいる児童と一緒に遊ぶなど、交流の機会がある。 ・行っているが、地域交流の機会の提供が少ないので、今後の課題。 ・所属する放課後等デイサービスの連絡会を通し、地域連携研修を行い、デイがどのような活動を行っているか、地域の方々に知っていく機会を設けた。	・来年度は、きょうだい参加の行事を考え、デイを知ってもらう足がかりにしていこうと思う。その後、これからの地域への交流のあるべき姿を考えていきたい。
関係機関や保護者との連携	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	・児童支援発達管理責任者が参画している。	・今後は、児発管候補にも参画していつもらえるようにしていく。
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	・想定外な事が起きた際など、すぐに電話連絡をし、臨機応変に対応できるようにしている。 ・事故発生時の対応マニュアルを車内に設置し、事故の際も落ち着いて対応できるようにしている。 ・下校時刻等の確認は、保護者から1カ月の利用表提出の際に、書面に記入頂き確認している。 ・不明な場合は、保護者、学校に確認している。 ・保護者や学校から、年間行事予定を頂いて把握している。 ・送迎時のトラブル等は学校へ直接電話連絡し、適切に対処している。 ・各学校の送迎のルールを年度初めに毎年確認し、全職員に周知している。	・今後も保護者、学校と連絡を取り、きめ細かい連携を図っていく。
	21	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	・管理者が行っている。 ・出来る限りの連携を図るようにしている。 ・学校に入ってから利用児童は、保育所等には確認できていないが、児童の状況によっては、小学校等に話を聞きに行ったり共有に努めている。	・まだまだ連携不足なので、積極的に情報共有できるように、管理者を中心に働きかけたい。
	22	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	・管理者が行っている。 ・相談支援事業所の連携は取っているが、児発センターとの連携は不十分である。 ・連絡会などで情報交換などを行っている。	・高石市は、児発センターとしての役割が機能していないので、連絡会を通じ行政に働きかけていく。 ・今後も相談支援事業所との連携を図っていく。
	23	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	・地域の小学校のプール開放等を利用しているが、交流する機会にはなっていない。 ・事業所としてはないが、個人レベルでは活動出来ている。 ・地域のイベントに参加するなどをし、交流をはかっているが、直接的にはない。 ・地域のイベントや施設(図書館など)を利用し、機会を設けるようにしている。	・今後どのような交流方法があるか、検討していく。 ・これからも、公園遊び等で地域の子どもと一緒に遊ぶ機会を作っていく。
	24	事業所連絡会等へ積極的に参加しているか	・事務局として、中心になり活動に参加している。 ・管理者が毎月参加している。	・今後も事業所の支援の向上の為、参加していく。
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	・送迎時などで話す、限られた時間の中で難しい事も多い。 ・課題等の認識について多少の誤差がある時もある。 ・送迎時、連絡帳等でコミュニケーションを図り、理解を深めている。 ・電話での相談や、来所での相談にも対応している。 ・保護者からの声に耳を傾け、発達の状況などについて共通理解を持てるように努めている。	・今後も送迎時や連絡帳を活用し子どもの情報や課題の共有に努める。 ・定期的に保護者会を開催し、保護者が気軽に相談できる機会を作っていく。
	26	保護者に対して学習会・研修会等の支援や案内を行っているか	・研修会などのお知らせのプリントを配ったりし、情報を提供している。 ・わたしノートの学習会の案内を行っている。	・所属する連絡会を通し、保護者学習会を開催していく。

		チェック項目	現在の取組内容・工夫している点	今後の改善目標(内容)
保護者への説明責任等	27	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	・見学时や契約時などに管理者が説明を行っている。 ・保護者から問い合わせがあった時は、丁寧な説明をしている。 ・個々の職員では行っていない。説明ができるようにならなければならない。	・どの常勤職員も説明できるように、内部研修を行っていく。
	28	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	・助言のできるだけの知識がなく、難しいと感じることがある。 ・複雑な相談等は管理者の指示を仰ぎ、支援を行っている。 ・職員は、都度管理者に相談し、必要な助言と支援を行っている。 ・知識不足もあり、できていない事が多い。 ・保護者の置かれている状況を踏まえて、出来る限り行っている。必要に応じて、面談する場を設けている。	・管理者以外の職員が適切に助言が出来ていないことが多いので、管理者から職員にアドバイスしながら、スキルを身につけられるようにしていく。
	29	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	・父母の会や、保護者会を行っていない。 ・行っていないが、今後意見交換が出来る場を提供していく必要性を感じる。	・来年度から、定期的に保護者会を開催していく。
	30	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	・苦情はさほどないが、相談事案について検討し、改善できるよう努めている。 ・苦情、相談を書面でファイリングし、閲覧出来る様設置し、所内で話し合い、対応している。 ・苦情はあまり無いように思うが、あれば情報共有し、管理者が迅速に対応していると思う。 ・対応できるように努力はしている。 ・苦情について真摯に受け止め、苦情受付票に記録を残し管理すると共に、職員間で内容を共有し、最善の対応をしているようにしている。	・保護者からの意見も苦情と捉え、迅速に対応していく。 ・苦情対応マニュアルを職員に周知していく。
	31	定期的にホームページ等で、活動概要や行事予定等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	・活動の様子はホームページで、行事予定等は手紙やホームページで発信している。 ・ホームページまたは紙媒体(お知らせのプリントなど)を通して行っている。	・今後も定期的にホームページを更新して、保護者に活動内容をお知らせしていく。
	32	個人情報に十分注意しているか	・書棚は全て施錠し、流出しないよう管理されている。 ・個人情報を書かれたものは、処理後すぐにシュレッダーし、外部流出しないよう注意している。 ・守秘義務の上、徹底するように心がけている。	・今後も管理を徹底していく。
	33	日々の支援内容、子どもの様子、おやつ等の保護者への報告をしているか	・連絡帳、送迎時に報告している。 ・電話が必要な場合は、電話にて対応している。 ・怪我や病気については、その時点で保護者へ連絡をおこなっている。	・来年度より連絡帳を一新し、より活動内容が分かりやすく工夫する。
非常時等の対応	34	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	・行事に地域住民を招待したりはしていない。 ・今後の課題。	・来年度は、きょうだい参加の行事を考え、デイを知ってもらふ足がかりにしていこうと思う。その後、これからの地域への交流のあるべき姿を考えていきたい。
	35	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	・職員に周知しているが、定期的に読み直すこともなく、実践できるよう改めて確認しないといけない。 ・各マニュアルについては、常時閲覧できる様にしている。 ・マニュアルを新しくする為、現在作成中。作成後は周知徹底を図る。 ・各マニュアルを策定し、職員間で周知している。	・職員間での周知は図れているが、保護者に対しては不十分である。災害時や事故の簡易なマニュアルを保護者に配布予定。
	36	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	・同じビルに入居の他社との共同防災訓練を行っている。 ・毎年、市内一斉の地震・津波訓練に参加している。 ・実際に児童と近くの学校へ避難経路を確認したり、職員間で最善の避難方法について情報共有するようにしている。	・児童を含めての訓練が少ないので、今後は定期的に児童と一緒に訓練を実施していく。
	37	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	・研修に参加したりしている。 ・利用時の児童の様子の小さな変化(体調、表情、言動など)に気づけるように常に高い意識を持って療育にあたっている。	・今後も虐待の研修を設けていく。
	38	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	・身体的拘束についての話し合いは行っていないと思う。 ・契約時に説明している。 ・身体拘束は行っていない。	・次年度より同意書を貰う準備をすすめている。

		チェック項目	現在の取組内容・工夫している点	今後の改善目標(内容)
非常時等の対応	39	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	・薬を服用させたり、保護者に必ず確認を取ってから提供している。 ・食物アレルギーのある子どもには、材料に注意し対応している。 ・保護者から毎年聞き取りを行い、情報を更新している。	・個別のアレルギ-の有無の一覧を作成する。
	40	ヒヤリハット、事故の事案を収集し再発防止等について事業所内において共有しているか	・記録として残し、再発防止に努めている。 ・ヒヤリ・事故報告書をファイリングし、閲覧できるよう設置。会議等でも、防止・改善の話合いがされている。 ・ヒヤリハット、事故の報告書を作成、ファイリングをし、誰もが閲覧できるよう周知徹底している。 ・1つひとつの事案を細かく記録し、再発防止のために、職員間で周知徹底し、記録はどの職員も閲覧できる場所に保管している。	・他の事業所の事故、ヒヤリハットも共有し、危機管理意識を上げていく。 ・今後も、事例検討を行い事故防止に努める